



今井小だより

第8号

令和4年

10月31日

青梅市立今井小学校



今井小HP

地域の風が行きかう学校

校長 神尾 健彦

今井の地区に活動を継続している地域の「こども会」がなくなりました。子供にとって「家」と「学校」のみが社会との接点となりつつあるのではないのでしょうか。コミュニティの喪失、地域のつながりの希薄化と言われています。原因として、地域での安全が担保できなくなってきたことや個人主義的な考え方の浸透、SNSなどのデジタルな関わりの増加などがよく挙げられます。また、自治会やこども会で輪番で回ってくる役割や会費への負担感などのデメリットが生活様式の中で増大してきたことがあると考えられます。さらにコロナ禍が希薄化により一層拍車をかけたと感じます。

それでも、今井の地域の皆さんは防災訓練をしたり花火を企画したりと地域のために様々な取組をしてくださっています。今井小学校としては、今後も地域の皆さんと連携しながら子供と社会をつなげる接点として「地域」の存在を大切にしながら教育活動を進めていきたいと考えております。その中で、今後青梅市として導入することになっているのが「コミュニティ・スクール」という仕組みです。今井小学校では令和7年度からの導入を予定しているところです。

青梅型のコミュニティ・スクールとは、子供たちや学校を取り巻く環境や地域の実態を踏まえ、今ある組織を生かした、学校と地域の皆さんが継続的に連携していくための仕組みのことです。学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことが期待されます。コミュニティ・スクールの協議会のメンバーは、輪番で回ってきたり参加を強制されるものではありません。PTAや既存の組織を活用しながら運営されていきます。コミュニティ・スクールとしての期待される効果は以下のようなものです。

子供

- ・ 経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながります。
- ・ 学校が社会的つながり、地域のよりどころとなります。
- ・ 学校を核とした地域ネットワークが形成され、地域の課題解決につながります。
- ・ 地域の防犯・防災体制等の構築ができます。

保護者

- ・ 学校や地域に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれます。
- ・ 地域の中で子供たちが育てられているという安心感があります。
- ・ 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

地域

- ・ 経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながります。
- ・ 学校が社会的つながり、地域のよりどころとなります。
- ・ 学校を核とした地域ネットワークが形成され、地域の課題解決につながります。
- ・ 地域の防犯・防災体制等の構築ができます。

学校

- ・ 地域の人々の理解と協力を得て「社会に開かれた教育課程」の実現が可能となります。
- ・ 地域人材を活用した教育活動が充実します。
- ・ 地域の協力により子供と向き合う時間が確保できます。

今井小学校での導入はまだ先のことですが、令和7年度に向けて今から地域とともに歩み、地域の風が行きかう学校づくりを目指していきます。